

そよかぜ

子どもをみまもる
しみんがいぎ



三郷市
マスコットキャラクター
かいちゃん&つぶちゃん

令和2年5月1日 第31号
発行 三郷市青少年育成市民会議
編集 広報啓発部会
事務局 三郷市教育委員会青少年課内
三郷市谷口570番地(三郷市青少年ホーム内)
☎048(953)1040 FAX 048(953)1068



昭和記念公園 ファミリーバスハイク



◀「親の学習」講座

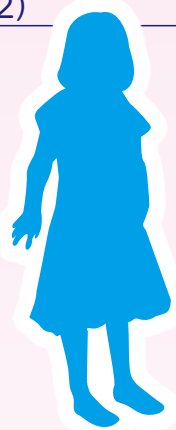
子どもを
見守る
地域の輪

「青少年の非行被害防止」
啓発活動 ▶



目次

- P 2～5 … みさと子どもフォーラム2019
- P 6 …… 「家庭の日」のポスターコンクール、第24回青少年善行賞表彰状授与式
- P 7 …… 三郷市青少年育成市民会議の活動
- P 8 …… 活動備品の貸出について、見守りボランティアの活動等



みさと子どもフォ

「みさと子どもフォーラム」は、青少年たちが日常
日頃の取り組みを、広く市民の皆さまに知って

みさと子どもフォーラム 2019 概要

【日 時】 令和元年 12 月 8 日（日）午後 1 時より開演 【場 所】 三郷市文化会館 小ホール
【共 催】 三郷市青少年育成市民会議 三郷市教育委員会 【来場者数】 505 名

活動
発表

1

金管バンド演奏
三郷市立鷹野小学校「金管バンドクラブ」



活動
発表

2

和太鼓演奏
「和太鼓豊屋」



●三郷市青少年の主張入賞作品

小学生の部

「ひいおばあちゃんの手」・・・・・・・・・・早稲田小学校 木曾 悠真

僕には、同じ誕生日のひいおばあちゃんがありました。いつも笑顔で優しく自慢のひいおばあちゃんでしたが、ある日体調を崩してしまいました。「明日会いに行けばいいや」そのように思って、お見舞いには行きませんでした。しかし、しばらくたって僕が会ったのは、今まで見たこともないひいおばあちゃんでした。容態が悪化し、会話もできません。「大丈夫だよ、また誕生日一緒にお祝いしようね。」ひいおばあちゃんは返事の代わりに、僕の手をぎゅっと握ってくれました。記憶よりも小さくてしわだらけだけど、それは確かに今までと同じ優しくて温かい手でした。このようになって、僕を包んでくれようとしてくれることが伝わり、胸が苦しくなりました。僕はその思いに応えようと、必死でしわしわの手を握り返しました。でもそれから、二度とひいおばあちゃんの声聞くことはできませんでした。亡くなったと聞いても、何を言われたのかよく分かりませんでした。

僕は今まで家族がそばにいることに何の疑問も感ぜませんでした。でもそれは当たり前ではないのです。家族、友達、先生。誰もがかけがえのない人で、いつ別れが来るか分かりません。一緒に過ごせる「今」を精一杯大切にしなければいけないのです。ひいおばあちゃんから学んだことは、「相手を大切に、きちんと向き合うこと」です。相手が伝えようとしていることを軽く見たり受け流したりせず、僕に発信したメッセージを、同じ目線で正面からキャッチすることが大切なのです。ひいおばあちゃんは手を握り返すだけで「ちゃんと聞いているよ」と伝えてくれました。僕も同じように、相手が誰であってもその姿勢を変えず、まっすぐに向き合っていきたいです。

（※紙面の都合で内容を要約しています。）

A1

「ビブリア古書堂の事件手帖」という本です。

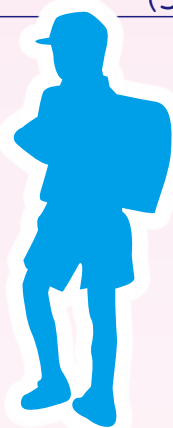
本にも本の一つひとつの良さがあることが分かりました。今まで本はたくさん読んだけど、本という一種で考えていたんですが、いろんなジャンルがあることが分かり、そういうことは人間と同じじゃないかと思いました。

A2

相手を責めたりしない心づかいのできる人になりたいです。

職業としては、車の整備士です。トミカが好きで、本当の車も見てみたいと思ったからです。

ーラム 2019



生活の中で強く感じていることや考えていること、
いただくために、毎年秋ごろに開催しています。



司 会：ミサトジュニアリーダーズクラブ

活動 3 スティールパン演奏 発表 「スーパーソニックス」



青少年の主張者 インタビューの質問

- Q1** 最近読んだ本で心に残ったものは何ですか。
- Q2** 将来どんな人になりたいですか。またどんな職業に就きたいですか。



小学生の部 「思いを形に」 新和小学校 大塚 くるみ

今年の五月、私は四年生のころからずっと伸ばしてきた長い髪の毛を、肩の上まで短く切った。きっかけは、いとこの病気が発覚したことだ。ある日、たまたま見ていたテレビで、病気や事故で髪の毛を失った子ども達に、自分の髪の毛を切って、かつらにしてプレゼントする活動があることを知った。私はテレビにかじりついた。この方法なら誰かのために力になれるかもしれない。だけど、せっかく伸ばしてきた自まんの髪を切りたくないという気持ちもあった。私の心は、シーソーのようにゆれていた。来る日も来る日も悩んだ。私にとって、髪を切るといのは、それだけ大きなことだったのだ。決断したのは一週間後。やっぱり髪の毛を切ろう。髪の毛をわたす相手は、選ぶことができない。だから私の髪は、いどこに届くわけではない。でも、それでもいい。いとこの力になりたいと思う気持ちは、いつしか、いどこだけでなく、同じように病気で苦しむ人の助けになることをしたいと望む気持ちに変わっていた。

いとこはその後、頑張って治療に耐え、退院することができた。いとこの病気がきっかけで、私は自分以外の誰かのためにできることを、初めて真剣に考えた。そして、自分にもできることがあるということを知った。私は、また髪の毛を伸ばしている。腰までの長さになったら、もう一度切って寄付するつもりだ。十六才になったら献血もする。十八才になったらドナー登録もしたい。どれも、直接相手にわたせるものではない。それでも私の思いは、会ったことのない、ただ一生懸命病氣と戦っている誰かに絶対、届く。そしてそれは、その人の力になるはずだ。自分には何もできないと決めつけるのではなく、相手を思う気持ちを形にすることを、あきらめない自分でいたい。

(※紙面の都合で内容を要約しています。)

A1 「ことばの力」という本です。絵で相手の発した、いやな言葉が釘になっていて、それを言ったらその人から血が出るんです。

A2 相手の気持ちになって、人のためにできる大人になりたいです。職業は、芸能人とかの裏で活躍するマネージャーや、カメラマンとかになりたいです。



パネル発表

埼玉県立三郷特別支援学校

ホワイエ内に、埼玉県立三郷特別支援学校高等部の作業学習で作成した成果物を展示いたしました。作業学習とは、児童生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習することです。

社会自立 職業生活



●三郷市青少年の主張入賞作品

中学生の部

「障がいと向き合って」

・・・・・・・・・・前川中学校 大川 友菜

亡くなった私の祖父はパーキンソン病という病気でした。パーキンソン病は、薬はあるけれども治る可能性はほぼありません。手足が不自由になったり、言葉を上手く話すことができなくなったりと症状は様々です。祖父がパーキンソン病と診断されたのは、私が生まれて間もないときでした。祖父の体調が悪化する前に、親戚みんなでたくさんの場所に出かけました。しかし、内容は分からないものの、私達のことを見て何か話をしている人を見かけることがありました。表現を見る限り、良い話ではないと感じられ、祖父との楽しいひとときがこわれてしまったことがあります。公共の場に障がい者がいると、理由もなく不快な気持ちになるかもしれません。ですが、その気持ちを表情に出すのはやめてほしいです。なぜなら、その冷たい目で見られた障がい者やその家族はその人以上に不快な気持ちになるからです。障がい者であっても大切な存在です。大切な家族なのです。

障がい者差別の問題は障がい者やその家族の問題ではなく、社会全体の問題です。解決するのは困難ですが、障がい者を温かい目で見守ることだけでも解決に近づけるのではないのでしょうか。私は、障がいがある人もない人も同じように接することができる社会をつくりたいです。そのために困っている人がいたら「何かお手伝いしましょうか。」と声をかけます。実際に行動するのは大変だと思います。しかし、勇気を出して行動すればきっと笑顔を増やすことができると信じています。

(※紙面の都合で内容を要約しています。)

A1 「私と犬の10の約束」という本がありますが、主人公が母親を病気で亡くした時に子犬を拾ってきて、いろんな人との出会いと別れがあって、すごく感動する本で私は好きです。

A2 将来は人が笑顔になるような仕事をしたいと思っています。例えば旅行会社の人とか、あと、ディズニーランドとかのテーマパークとか、楽しいひと時に寄り添える仕事がしたいです。京都とか日本の和のよいところ、あとは、原宿とか現代の日本のよいところも外国の方に知ってほしいです。

参観者感想

みさと子どもフォーラム2019

- 4名の子どもたちの主張は、どれも思いがこもった発表で大変素晴らしかったです。どの子も命・家族に関わるもので、体験を通して考えたことを素直に言葉にしている、じーんとききました。このような機会は是非続けてほしいです。
(原文のまま、掲載しております)

- 作文の発表が素晴らしく、発表の模様、もしくは音声を、小学生にも聞かせたい。それだけの教育的価値があると思いました。
(原文のまま、掲載しております)

- 我が子と同じ年代の子でも、とてもしっかりした考えを持って、日々過ごしているんだなと感心しました。
我が子とも、もう少し1人の人として、対話する機会を持ちたいと思いました。
(原文のまま、掲載しております)

- 「家庭の日ポスターコンクール」の絵は、どれも子どもが家族で楽しく過ごす、明るい笑顔がいっぱいの作品で素晴らしかったです。
(原文のまま、掲載しております)

- 多方面で頑張っている子どもたちを、沢山拝見できました。また、その子どもたちを支える大人たちも、沢山のいるのだと改めて思いました。
(原文のまま、掲載しております)



中学生の部 「かけがえのない命を守るために」 ・ ・ ・ ・ ・ 早稲田中学校 山上 結子

虐待のニュースが毎日のように新聞やテレビで流れ、その度に胸がしめつけられる思いがします。そして、同じ人間として悲しくなります。虐待を受けていた子ども達は「なんでこんな目にあわなくてはいけなないの？」と疑問を感じ、「もうこんなことにあうのはいやだ」と切実に助けを求めていると思います。子ども達の気持ちを思うと胸が痛みます。今、核家族が増えており、育児をする親の気持ちに余裕がなくなって、制御できなくなることで虐待の事件が増えています。育児の大変さについて、母に聞いてみると、「親の思いどおりにいかないことが多く、心に余裕がない時に言うことを聞いてくれなかったり、大泣きされたりした時は泣きたいことがあった」そうです。でも「父や友達、周りの人に話を聞いてもらったり、手助けしてもらったりしてくれて、とても助かった」とのことです。私はこの言葉を聞き、「覚悟を決めた上で子育てしている、周りの人に支えてもらい、みんなで子育てすることで喜びもある」と思いました。そして、母親一人ではなく、周りや地域全体で子どもを見守り、育てていくことの大切さを知りました。

人権とは、「生まれながらに持っている人間が人間らしく生きる権利」です。子ども達が幸福に生きるために、また、かけがえのない命を守るために一人一人が意識を持って考え、社会全体で子どもを守っていかなければならないと思います。私は将来、子ども達に優しく寄り添う保育士になりたいと考えています。私はこれからも社会に目を向け、学び、貢献していきたいです。

(※紙面の都合で内容を要約しています。)

A1 「屍人荘の殺人」という本がありますが、ミステリーが好きで読んでみて世界が広がりました。ミステリーで推理ですが、そこからまた新しい知識を得たりして、この本はおもしろかったです。

A2 より優しく寄り添っていききたいけど、叱る時は叱る、まだ自分にはその能力がないので、メリハリをつけていきたいと思っています。



「家庭の日」のポスターコンクール

親子や家族のふれあい、地域の暮らしをテーマにした「家庭の日」ポスターコンクールを実施し、入賞作品を「みさと子どもフォーラム2019」において表彰しました。

小学校低学年の部

◆ 最優秀賞

「かぞくみんなでながしソーメン！」
彦成小学校 宮田 彩夏



◆ 優秀賞

「ほっかいどうのおはなばたけ」
幸房小学校 吉田 妃香俐



◆ 優良賞

「みんなで花火きれいだな」
高州東小学校 代田 真菜



◆ 優良賞

「わたしのおたんじょうび」
桜小学校 秋葉 雅



小学校高学年の部

◆ 最優秀賞

「大地の恵みで家族幸せ」
前谷小学校 益子 美海



◆ 優秀賞

「家族でワクワク山登り」
前間小学校 古山 陽大



◆ 優良賞

「花火大会」
新和小学校 富田 花乃子



◆ 優良賞

「新しい家族がふえたね」
吹上小学校 坂爪 樹



中学生の部

◆ 最優秀賞

「家族で過ごす日々を当たり前」
南中学校 佐久間 柚加



◆ 優秀賞

「楽しかった花火」
瑞穂中学校 高橋 輝



◆ 優良賞

「家族の時間」
瑞穂中学校 根岸 萌



◆ 優良賞

「幸せな日記」
栄中学校 岡庭 愛美



第24回 三郷鳩鳥ライオンズクラブ 青少年善行賞表彰

令和2年2月15日（土）三郷鳩鳥ライオンズクラブによる第24回青少年善行賞表彰授与式が三郷市文化会館小ホールにおいて行われました。

地域の中で息づいているひとつひとつの思いやりの心を見せてくれた20団体と個人73名が表彰されました。



三郷市青少年育成市民会議の活動

青少年育成市民会議は、「青少年の健全な育成をめざす、団体と個人の連合組織」です。

青少年の健全育成は、市民全員の願いであり、また責務でもあります。地域の子どもは地域の大人で見守っていかねばなりません。そこで市民総ぐるみで「青少年の健全育成をめざす市民運動」を盛り上げる推進母体として、平成8年に、市内の青少年団体、青少年育成団体、青少年健全育成活動を行う個人の参加を得て設立しました。

私たち会員は、それぞれが所属している団体や、個人ではできない全市的な青少年の健全育成への取組を、ボランティアで行っています。

全体事業

- みさと子どもフォーラム
- 地域育成・子育て応援部会合同研修会

地域育成部会

- 8中学校区地域青少年育成会情報交換会

地域の大人が地域の子どもを見守ることは非常に重要なことです。8中学校区の各育成会の取り組みを中心に情報交換を行うとともに、部会事業の企画・実施に向けた話し合いを行っています。

- 「こども110番の家」運営・維持
子どもが身の危険を感じた時すぐに飛び込める「こども110番の家」の設置推進を継続して行っています。犯罪防止の効果もありますので、今後も皆さまのご協力をお願いします。
- 見守りボランティア
- 青少年の非行・被害防止、子供・若者育成支援啓発活動
年2回、市民の皆さんに青少年健全育成について考えていただくため駅前や大型商店街店頭、イベント会場でチラシや啓発物を配布しています。

青少年活動部会

- 「遊ingスクエア」
毎年開催される「生涯学習フェスタ（勤労者体育館・青少年ホーム）」にて、様々な遊びの提供や活動備品貸出事業の展示を行っています。
- 青少年育成者研修会
青少年リーダーとして必要な知識、経験を体験活動を通して学びます。
- 研修者派遣事業
青少年や青少年の育成者・指導者の資質向上を支援するために、各種研修会などへの参加について補助を行います。詳しくは8ページをご覧ください。
- 活動備品貸出事業
- 「ねこの手団」
市民会議が行う事業をお手伝いしてくださる方を募集しています。

スポーツ・レクリエーション部会

- ファミリーバスハイク

親子で同じ遊びをして、たくさん運動してたくさん話す機会を作るために、ファミリーウォークラリーなどを開催しています。

子育て応援部会

- 「親の学習」講座

教育の原点である家庭の教育力向上を目指して、埼玉県「親の学習」プログラムを活用した講座を開催しております。参加者が話し合いをするなどして、主体的に学ぶ参加型の学習です。赤ちゃんから高校生を持つ保護者のほか、中学生、高校生など近い将来親となる生徒を対象に「いつでも・どこでも・誰でも」をモットーに実施しています。

- ファシリテーター研修会・実践発表会・講演会

年間の「親の学習」講座の取組と成果、課題と展開を発表し、ならびに講演会を開催し、広く市民に啓発し、青少年の健全育成を推進しています。

- 子育て相談

広報啓発部会

- 広報「そよかせ」の発行

毎年5月・11月（増刊号）に発行し、下記の公共施設にて配布しています。

市役所市民ホール、青少年ホーム、勤労者体育館、北公民館、早稲田図書館、北部図書館、市立図書館、文化会館、鷹野文化センター、高州地区文化センター、彦成地区文化センター、東和東地区文化センター、総合体育館、高州地区体育館、コミュニティセンター、瑞沼市民センター、世代交流館ふれあいパーク、北児童館、早稲田児童センター、南児童センター、ピアラシティ交流センター

わたしたちは市民会議に参加しています。

- | | | |
|------------------|-------------------|------------------------|
| ○小学校長会 | ○瑞穂中学校区地域青少年育成会 | ○三郷市スポーツ推進委員連絡協議会 |
| ○中学校長会 | ○三郷市子ども会育成連絡協議会 | ○早稲田地区スポーツ・レクリエーション委員会 |
| ○市内高等学校長代表 | ○三郷市青少年相談員協議会 | ○戸ヶ崎地区スポーツ推進委員会 |
| ○埼玉県立三郷特別支援学校 | ○ミサトジュニアリーダーズクラブ | ○高州・東町スポーツ・レクリエーション委員会 |
| ○生徒指導特別委員会 | ○三郷市婦人連絡協議会 | ○彦成地区スポーツ推進委員会 |
| ○南中学校区地域青少年育成会 | ○市内高等学校PTA役員連絡協議会 | ○新三郷地区スポーツ推進委員会 |
| ○北中学校区地域青少年育成会 | ○三郷市PTA連合会 | ○ボーイスカウト三郷連絡協議会 |
| ○栄中学校区地域青少年育成会 | ○埼玉県立三郷特別支援学校PTA | ○三郷市青少年育成推進委員協議会 |
| ○彦成中学校区地域青少年育成会 | ○三郷市次代を担う若者の船の会 | |
| ○彦糸中学校区地域青少年育成会 | ○三郷市スポーツ少年団 | ○個人正会員 |
| ○前川中学校区地域青少年育成会 | ○三郷市体育協会 | ○個人賛助会員 |
| ○早稲田中学校区地域青少年育成会 | ○三郷市レクリエーション協会 | ○団体賛助会員 |

市民会議は 地域で青少年を育てる活動を支援します。

お気軽にご利用ください。

活動備品を貸出します。

青少年の体験活動を促進するため、活動備品の貸出をしています。

○利用の範囲

利用することができるかは、三郷市青少年育成市民会議会員及び、三郷市内で営利を目的としない青少年活動を行う団体及び個人です。

○利用の期間

原則として1週間以内です。

○利用の申込

市民会議事務局の三郷市教育委員会青少年課（三郷市青少年ホーム）に利用申請書を提出して下さい。

○損害賠償

利用者は、故意又は重大な過失により市民会議活動備品を損傷し、又は亡失したときは、会長の指示に従いこれを原形に復するか又はその損害を賠償していただきます。

活動備品の指導者派遣について

活動備品を利用してみたいが使用方法が分からない場合は、指導者を派遣し、利用する上でのお手伝いができる場合があります。青少年課にご相談ください。

右のQRコードから
備品目録にアクセス
できます。



○ドームテント



○テーブル・自立式タープ等



○ランタン



○カプラ



○餅つきセット



○2WAYテーブルグリル

研修者派遣制度を活用してください。

三郷市青少年育成市民会議では、青少年活動者、青少年育成者、青少年育成指導者を指すかたが、様々な研修に参加する際、その研修費用を助成いたします。これは、団体活動を盛んにし、青少年の健全育成活動を活発に行うためには、体系的な知識、理論、技術を習得した青少年育成者と青少年活動者が求められることから実施するものです。

- 1 派遣研修対象者 青少年活動者、青少年育成者、青少年活動育成指導者を指すかた
- 2 助成の対象事業 野外教育活動、自然体験活動、スポーツ・レクリエーション活動、社会福祉活動、ボランティア活動、団体運営、組織運営などをテーマに組織的に行われる研修事業
- 3 研修費の助成額
 - ①受講料が1万円以内の場合は、全額
 - ②受講料が1万円を超える場合は、1万円を超える額の2分の1を1万円に加算した額で、限度額は2万円

見守りボランティア活動

三郷市青少年育成市民会議では「子どもを見守る地域の輪」をスローガンに、「見守りボランティア」の輪を広げ、児童・生徒の登下校時の見守り活動などを実施し、安心・安全なまちづくりに努めています。

この見守り活動は平成16年度から展開しており、昨年度は9,900名を超える方にご参加いただきました。

